

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
学ぶ楽しさの追求	① 職員の資質向上 ② 基礎学力の定着 ③ 教育環境の充実

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 職員の資質向上と基礎学力の定着						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自分の将来を考え、夢を語る児童の育成 ・自分の夢を語る児童を80%以上とする。 ・自分の夢に向かって、今努力する目標を達成することができる児童(3年生以上)を80%以上とする。	・総合的な学習の時間を利用して、地域の活性化を考える中で、自分たちができることや高島の未来について考えさせる。 ・道徳や特別活動で自分の将来について考える授業に取り組む(キャリア教育)。	特活	宮崎ち
学校運営	○教職員の資質・能力の向上	児童の実態・特性に応じた指導の工夫及びICTを活用した授業の工夫	・校内研究、職員研修を通じて教職員の指導力の向上を図る。 ・ICTに関する研修を1回以上行う。	・校内研究で、児童の個々の実態を共通理解し、特性に応じた指導について考え実践する。 ・電子辞書、Web共有ボードの利活用についての研修を行う。	研究	楠田
教育活動	●学力の向上	コミュニケーション能力を育てる指導の工夫及び基礎的学習内容の習得を図る工夫	・交流学习を活用し、同級生とのコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・児童の実態に合わせたコミュニケーション方法をとる。 ・朝の時間を活用し、児童の実態に応じた基礎的学習を行う。	・交流学习のねらいを児童に正しく伝え、児童自ら他校の児童に関わろうとするようにめあてをたてさせる。 ・児童の実態に応じて、テレビ会議システム、Web共有ボードなどICT機器を活用し、児童が人と関わることへの苦手意識を少なくしていく。	研究	楠田
② 豊かな心と身体の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	集団の一員としての自覚を深め、協働してより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成	・児童全員が学校・家庭・地域で元気に挨拶できるようにする。 ・全員が友だちに「さん・くん」をつけて呼べるようにする。	・全校朝の会で挨拶や返事についての話をしたり、詩を朗読したりする。 ・毎日、全児童と全職員で「おはよう握手」と「さよなら握手」を実施する。 ・全職員が「にじいろ道徳」の授業を見せ合う。	生活	岩野
教育活動	●いじめ問題への対応	差別・いじめを許さない支持的風土のある学校づくりの推進	・教育相談体制を充実させ、スクールカウンセラーや保護者との連携を図る。	・いじめに関するアンケート等を実施し、状況把握に努め、その結果を学級・学校づくりに活かす。 ・スクールカウンセラーを活用した面談やエンカウンター等を実施する。	生活	岩野
教育活動	●健康・体づくり	心身の健全な発達と体力向上の推進	・毎週水曜日20分休みに体力の向上を目的とした活動を入れる。 ・毎月の委員会活動を通して、保健や体力向上に関する啓発活動を行う。 ・食生活を通して、身体の健康的な成長を促す。	・毎週水曜日20分休みにマラソントイムやなわとびタイムを継続的にを行い、体力の増加を図る。 ・委員会メンバーを中心に、身の回りの衛生や健康に関する調査やポスターの掲示など、啓発活動をすすめていく。 ・毎日の朝食喫食調査や給食指導の中で、食事の大切さをつたえ、肥満児や痩身児の減少を目指す。	保体	池田原口
③ ICT利活用教育の推進(宝当プラン)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○遠隔教育の推進	TV会議システムとWeb共有ボードの活用による主体的・対話的で深い学びの充実	・毎週水曜日にスピーチタイムを実施する。 ・年1回以上、TV会議システム・Web共有ボードを活用した授業を行う。	・プログラミング教育の授業で作成する高島の紹介や観光案内などを活用して、TV会議システム、Web共有ボードでの交流を推進する。 ・各学年で、国語などの教科や道徳などでの活用をさらに推進する。 ・大学、水産振興センターとの連携を行う。	教務	楠田
教育活動	○プログラミング教育の推進	アンブレグドやプログラミングの活動を通して本校児童に身につけさせたい「資質・能力」と実施可能な「年間計画」の明確化	・低学年児童はアルゴリズム(処理手順)について知る ・中学年児童はアルゴリズムをフローチャートに書くと共に、問題解決するために「順次」「繰り返し」の処理を組み合わせるプログラミングを作成することができる。 ・高学年児童は問題解決のために「順次」「繰り返し」「条件分岐」の処理を組み合わせ、プログラミングを作成することができる。	・年間計画を作成し、実際に指導しながら修正を行う。 ・各授業で簡易指導案を作成する。 ・低学年で「プログラミング・ゼミ」の活用、中学年で「スクラッチ」の活用、高学年で「プレゼンテーション」の充実を検討する。	教務	楠田
学校運営	○ICTを活用した学習支援の推進	ICT環境の整備と有効活用実践の推進	・電子辞書、タブレットを日常の授業で使用できるよう準備する。 ・TV会議システム用の教室を整備し活用する。	・各機関と連携し環境の整備を進める。	教務	楠田
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の推進	・業務の効率化を図り、勤務時間内における学級事務等の時間を昨年度より20%増やす。	・職員会議については内容を精査し、資料配付で済ましたり、回数を減らしたりする。 ・特定の職員に業務が集中しないように連絡調整を密に行う。	教務	宮崎り

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目